

本校では、今日の「グローバル化」の中で、世界各国にある教育提携校との交換留学や研修団の受け入れ、海外語学研修、「トビタテー留学 JAPAN 日本代表プログラム」をはじめとする、様々なプログラムへの参加支援など、いろいろな形で「国際交流」を推進しています。その中でも、教育提携として最も歴史の古いアメリカ・ワシントン州の「CWA (チャールズ・ライト・アカデミー)」とは、中学生の夏期海外研修を始め、短期交換留学、研修団の受け入れと、太平洋を越えて大きく繋がり、その絆は、それぞれのプログラムに参加した生徒たち同士でも深く長く続いているいます。

中学生の交換留学生として現地校を経験した平川さんのその後、この3月に渡航する近藤さんは、その意気込みを紹介します。

広がり深まる本校の国際交流活動



今年の2月24日からは、研修団が来日し、本校での学校交流と、本校生徒宅でのホームステイをします。そして3月4日には、本校生徒3名が約3週間の短期交換留学生として太平洋を渡ります。中学生から「交換留学」ができる他校にもあまり例のないプログラムとして継続しています。

中学生の交換留学生として現地校を経験した平川さんのその後、この3月に渡航する近藤さんは、その意気込みを紹介します。

本校では、今日の「グローバル化」の中で、世界各国にある教育提携校との交換留学や研修団の受け入れ、海外語学研修、「トビタテー留学 JAPAN 日本代表プログラム」をはじめとする、様々なプログラムへの参加支援など、いろいろな形で「国際交流」を推進しています。その中でも、教育提携として最も歴史の古いアメリカ・ワシントン州の「CWA (チャールズ・ライト・アカデミー)」とは、中学生の夏期海外研修を始め、短期交換留学、研修団の受け入れと、太平洋を越えて大きく繋がり、その絆は、それぞれのプログラムに参加した生徒たち同士でも深く長く続いているいます。

今年の2月24日からは、研修団が来日し、本校での学校交流と、本校生徒宅でのホームステイをします。そして3月4日には、本校生徒3名が約3週間の短期交換留学生として太平洋を渡ります。中学生から「交換留学」ができる他校にもあまり例のないプログラムとして継続しています。

中学生の交換留学生として現地校を経験した平川さんのその後、この3月に渡航する近藤さんは、その意気込みを紹介します。

本校では、今日の「グローバル化」の中で、世界各国にある教育提携校との交換留学や研修団の受け入れ、海外語学研修、「トビタテー留学 JAPAN 日本代表プログラム」をはじめとする、様々なプログラムへの参加支援など、いろいろな形で「国際交流」を推進しています。その中でも、教育提携として最も歴史の古いアメリカ・ワシントン州の「CWA (チャールズ・ライト・アカデミー)」とは、中学生の夏期海外研修を始め、短期交換留学、研修団の受け入れと、太平洋を越えて大きく繋がり、その絆は、それぞれのプログラムに参加した生徒たち同士でも深く長く続いているいます。

中学生の交換留学生として現地校を経験した平川さんのその後、この3月に渡航する近藤さんは、その意気込みを紹介します。



「夢」から「目標」へ

学校長 藤原邦彦



1月号
(第341号)

武庫川女子大学
附属中学校・高等学校
総務部

「たゆまざる歩みおそろしカタツムリ」——垂直に高く掲げた右手は原爆の脅威を、水平に伸ばした左手は平和を。あの長崎・平和祈念像を作った彫刻家・北村西望さん(文化勲章受賞者)の句です。この像の制作現場で地面に這うカタツムリを見つけた

時

の感動を詠んでいます。日本を代表する芸術家になることを夢見たがかなわず、苦悶の日々が続い

たそうです。あせらず長生きすれば実現可能と制作に励み夢をかなえ百二歳で永眠されました。

新しい年の初め。夢について思いを馳せてみましょう。今43歳。今年もアメリカのメジャーリーグ

での活躍が期待されるイチロー選手は、「夢は近づくと目標に変わる」「今自分にできること。頑張

ればできそうなことを積み重ねないと遠くの大きな目標は近づいてこない」と語っています。今も彼

は、怪我をしない体づくりを絶えず心掛け、チームの誰よりも早く球場に入り、入念なトレーニング

を重ねて試合に臨みます。

最近こんな言葉もありました。6歳から書道を始め、大学卒業後3年間OLとして働いたのちに女

性書家に転身して活躍中の柴舟さん。「ぬるま湯から出る決意をした瞬間、人間の成長は始まる。自

分よりちょっと上にある不快ゾーン」と呼びかけています。

「自分よりちょっと上にある不快ゾーン」と、イチローの言う「頑張ればできうこと」は同じ意味でしよう。それを目標と定め、粘り強く積み重ねる努力——カタツムリの歩みが夢につながると訴えています。

いま世界の政治・経済・社会が大きく揺れ動いています。先行きの不安はあるでしょう。しかしそれだけに、特に若い世代の人たちが希望を失わず目標をもつて自己を確立していくことが大切ではないかと思います。

昔のことになりますが、校祖公江喜市郎先生が附属中高の全校朝礼で述べられた言葉を紹介しま

しょう。「青年とは、年が若い者をいうのではない。大いなる希望を持ち続けている者をいうのである。

希望を失った者は老年というのである。

最近こんな言葉もありました。6歳から書道を始め、大学卒業後3年間OLとして働いたのちに女

第71回甲子園ボウルを盛り上げました

12月18日に全日本大学アメリカンフットボール選手権決勝である「第71回毎日甲子園ボウル」が、阪神甲子園球場で行われ、今年も本校のクラブが賛助出演しました。

放送部の中尾萌さん（高3）が、午前中に行われた中学生タッチフットボール招待試合から午後の甲子園ボウル、試合後の表彰式で、選手紹介をはじめ今大会の司会進行のアシスタントをつとめました。また、マーチングバンド部が、試合前セレモニーや表彰式で演奏するとともに、バトンワーリング部と附属幼稚園・保育園の園児と一緒にハーフタイムショーを披露しました。ハーフタイムショーで掲げられた『新たな歴史が始まる』と書かれた横断幕は、書道部の高校3年生が制作しました。

初めまして、新常任委員会です。 ～今年も募金活動を頑張ります～

初めてまして、新常任委員会です。常任委員会から

☆様々な分野での活躍☆

～マロニエ賞受賞～

12月21日（水）、中学コーラス部が兵庫県知事から

大賞を受賞しました。兵庫県公館で行われた表彰式に参列した中学コーラス部部長の木田安菜

さん（中3）の言葉です。

「マロニエ賞の受賞は、国内大会だけでなく国際大会でも成績を残されている方が多く、私はその空気を圧倒されてしまいそうになりました。

私たち中学コーラス部は、全国大会に出場するこ

とすら初めは危ぶまれていました。それが、全国大

会で金賞を受賞でき、この名誉あるマロニエ賞を頂けて、本当にここまで応援してくださった皆様に感謝

していくことで復興の力添えをしていくこうと思います。ご協力してくださった方々に深く感謝しております。ありがとうございます。



定期演奏会で「最高の音楽」

オーケストラ部は今年も「最高の音楽」をモットーに日々活動してきました。

その集大成となる定期演奏会を昨年12月23日に開催しました。今回は第25回という記念公演で、たくさんのOGの方々との合同演奏をプログラムに加えて、より華やかな節目の年にふさわしい定期演奏会になりました。

ちょうど1年前から先輩方が築き上げてきたこのオーケストラ部を受け継ぎ、この1年間はコンクールや演奏会やたくさんの舞台で演奏させていただきました。舞台で成功し喜びを分かち合った日もありました。逆に自分たちが思っているようにはいかず、悔しさで泣いた日もあり、この大人数の部活を引っ張つていくことがこんなに難しく

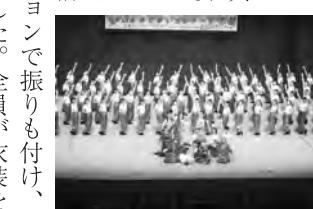
大変なことだったのだと、先輩方の偉大さに気づくこともありました。今回の定期演奏会を迎えることができたのも、ご指導いただいた先生方、ご協力いただいた方々、高校



3年生24人、後輩たち、皆様の協力があつて成し遂げられたと思います。この伝統ある定期演奏会が末永く続いてほしいです。

部長 阪田 祐加（高3）

着けて、高3がステージの前面で歌い踊りました。



・兵庫県知事より中学コーラス部がマロニエ賞を受賞

◇兵庫県中学校柔道新人大会
12月3、4日（高砂市総合体育館）
・52kg級 3位 明石 梨佐（中2）
・70kg超級 3位 城野 景都（高2）
・63kg級 3位 川端 桃香（高2）
・無差別級 3位 長崎あすか（高2）

【コーラス部】

12月21日（兵庫県公館）

・ソロトワール U15 1位 岡本 華奈（中3）
・2バトン U15 2位 山崎 優美香（中2）
・3バトン U18 1位 中村 珠己（高1）
・ソロストラット U15 1位 岡本 華奈（中3）
・ソロストラット U15 1位 岡本 華奈（中3）



練習の日数が少なくとても厳しい状況でしたが、観客の方々にとても好評でした。

【バトンワーリング部】

△第13回兵庫県スポーツバトンコンテスト兼第70回兵庫県民体育大会

・ソロトワール U15 1位 岡本 華奈（中3）
・2バトン U15 2位 山崎 優美香（中2）
・3バトン U18 1位 中村 珠己（高1）
・ソロストラット U15 1位 岡本 華奈（中3）
・ソロストラット U15 1位 岡本 華奈（中3）

（24名）